

## 4 臨地実習

科目名	単位数	時間数
基礎看護学実習Ⅰ	1	45
基礎看護学実習Ⅱ	2	90
地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	30
地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90
成人看護学実習Ⅰ	2	90
成人看護学実習Ⅱ	2	90
成人看護学実習Ⅲ	2	90
老年看護学実習Ⅰ	1	45
老年看護学実習Ⅱ	2	90
小児看護学実習Ⅰ	1	45
小児看護学実習Ⅱ	1	45
母性看護学実習	2	90
精神看護学実習	2	90
統合実習	2	90

## 臨地実習

### 実習目的

既習の知識・技術・態度を統合し、対象に応じた看護を実践する能力を養う。

### 実習目標

- I 科学的根拠に基づき、対象の看護過程を展開できる。
- II 保健医療福祉チームの一員として看護の役割と責任を認識し行動できる。
- III 看護実践を通して自己を振り返り、人間の多様な価値観を尊重できる態度を修得する。

## 1) 基礎看護学実習 3単位 135時間

### 基礎看護学実習目的

対象の全体像を把握し、必要な日常生活援助を実践するための基礎的能力を養う。

### 基礎看護学実習目標

- I 対象の生活から全体像を把握することができる。
- II 対象をアセスメントした結果から看護の必要性を導き出すことができる。
- III 対象に必要な日常生活援助の計画を立案し実施することができる。
- IV 実施した援助を客観的に振り返り、対象に与えた影響がわかる。
- V 人間関係成立のための行動をとることができる。
- VI 看護学生として責任ある行動がとれる。

### (1) 基礎看護学実習 I (1単位 45時間 1年生)

#### ①基礎看護学実習 I - ① (13時間)

##### 目的

入院している対象の環境、療養生活を知ることができる。

##### 目標

- I 病院の役割・機能・構造および病棟の機能・構造を知る。
- II 入院している対象がどのような生活を送っているか実際を知る。
- III 対象との接し方を学ぶ。
- IV 看護学生として責任ある行動がとれる。

#### ②基礎看護学実習 I - ② (32時間)

##### 目的

対象をからだ・心・社会関係のつながりから経過をおって把握し、必要な日常生活援助を考え、実践する基礎的能力を養う。

##### 目標

- I 対象の生活についての事実を知ることができる。
- II 客観的事実から全体像を把握し、対象に行われている日常生活援助の意味を考えることができる。
- III 既習の技術を原理・原則に基づいて実施できる。
- IV 実施した援助を振り返り目的の達成度を評価できる。
- V 看護学生として責任ある行動がとれる。

### (2) 基礎看護学実習 II (2単位 90時間 1年生)

##### 目的

対象に必要な日常生活援助を実践するための基礎的能力を養う。

## 目標

- I 客観的事実から対象の全体像を把握することができる。
- II 対象の看護上の問題を明らかにし、調和または解消できるように看護の必要性を導き出すことができる。
- III 対象に必要な日常生活援助の行動計画を立案することができる。
- IV 行動計画に基づき日常生活援助を実施できる。
- V 実施した日常生活援助を目標に照らして評価できる。
- VI 人間関係が成立するための行動をとることができる。
- VII 看護学生として責任ある行動がとれる。

## 2) 地域・在宅看護論実習 3単位 120時間

### 地域・在宅看護論実習目的

地域包括ケアシステムにおける活動の実際をとおして、地域で生活しているあらゆる健康の段階にある対象者や家族が、安心してその人らしい生活を維持していくための地域・在宅看護に必要な基礎的能力を養う。

### 地域・在宅看護論実習目標

- I その人らしい生活と健康を支えるために、地域で生活している対象の価値観や多様性を理解できる。
- II あらゆる健康状態にある対象者や家族が、安心してその人らしい生活を維持していくための地域・在宅看護を考えることができる。
- III 地域の特徴を理解し、地域包括ケアシステムのあり方や多職種連携の必要性を考えることができる。

### (1) 地域・在宅看護論実習 I (1単位 30時間 1年生)

#### 目的

その人らしい生活と健康を支えるために、地域で生活している対象の価値観や多様性を理解する。

#### 目標

- I 地域で生活している対象を取り巻く環境について理解できる。
- II 地域で生活している人々とのふれあいから、日常生活について理解できる
- III 地域で生活している人々を尊重した態度でかかわることができる。
- IV 看護学生として、責任ある行動をとることができる。

### (2) 地域・在宅看護論実習 II (2単位 90時間 3年生)

#### 目的

地域包括ケアシステムにおける活動の実際をとおして、あらゆる健康状態にある対象者や家族が、安心してその人らしい生活を維持していくための地域・在宅看護に必要な基礎的能力を養う。

#### 目標

##### 〈保健センター〉

- I 地域包括ケアシステムにおける保健センターの役割・機能を理解できる。
- II 地域で生活する母子を支援するための看護の実際を理解できる。
- III 保健医療福祉チームの一員として責任ある態度で行動することができる。

##### 〈訪問看護ステーション〉

- I 地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの役割・機能を理解できる。
- II 地域で療養している対象とその家族の看護の実際を理解できる。

- Ⅲ 保健医療福祉チームの一員として責任ある態度で行動することができる。
- 〈地域包括支援センター〉
- Ⅰ 地域包括支援センターの役割・機能を理解することができる。
  - Ⅱ 地域包括支援センターの活動の実際を理解できる。

### 3) 成人看護学実習 6単位 270時間

#### 成人看護学実習目的

成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、あらゆる健康の段階に応じてセルフケア能力を生かした看護が実践できる能力を養う。

#### 成人看護学実習目標

- Ⅰ 成人期にある対象について発達段階・健康障害の種類・健康の段階・生活過程の特徴を統合して理解できる。
- Ⅱ 看護の必要性からセルフケア能力を生かした看護計画を立案することができる。
- Ⅲ 対象に必要な看護を実施・評価できる。
- Ⅳ 対象の自己決定を尊重した態度で接することができる。
- Ⅴ 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解できる。
- Ⅵ 看護学生として責任ある行動がとれる。

#### (1) 成人看護学実習Ⅰ (2単位 90時間 2年生)

##### 目的

慢性期にある対象の健康の維持・増進の重要性を理解し、セルフケア、セルフマネジメントするための看護が実践できる能力を養う。

##### 目標

- Ⅰ 慢性期にある対象について発達段階・健康障害の種類・健康の段階・生活過程の特徴を統合して理解できる。
- Ⅱ 看護の必要性からセルフケア能力・セルフマネジメント能力を生かした看護計画を立案することができる。
- Ⅲ 対象に必要な看護を実施・評価できる。
- Ⅳ 対象の自己決定を尊重した態度で接することができる。
- Ⅴ 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解できる。
- Ⅵ 看護学生として責任ある行動がとれる

#### (2) 成人看護学実習Ⅱ (2単位 90時間 2年生)

##### 目的

生命が危機的状況にある対象に、回復を促進するための看護を実践できる能力を養う。

##### 目標

- Ⅰ 生命が危機的状況にある対象について発達段階・健康障害の種類・健康の段階・生活過程の特徴を統合して理解できる。
- Ⅱ 看護の必要性から回復を促進するための看護計画を立案することができる。
- Ⅲ 対象に必要な看護を実施・評価できる。
- Ⅳ 対象の自己決定を尊重した態度で接することができる。
- Ⅴ 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解できる。
- Ⅵ 看護学生として責任ある行動がとれる

### (3) 成人看護学実習Ⅲ (2単位 90時間 2年生)

#### 目的

エンドオブライフケアが必要な対象に、その人らしく生きるための看護を実践できる能力を養う。

#### 目標

- I エンドオブライフケアが必要な対象について発達段階・健康障害の種類・健康の段階・生活過程の特徴を統合して理解できる。
- II 看護の必要性からその人らしく生きるための看護計画を立案することができる。
- III 対象に必要な看護を実施・評価できる。
- IV 対象とその家族の自己決定を尊重した態度で接することができる。
- V 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解できる。
- VI 看護学生として責任ある行動がとれる

## 4) 老年看護学実習 3単位 135時間

### 老年看護学実習目的

老年期にある対象を統合的にとらえ、人生の最期までその人らしい生活が営めるよう、生活史・価値観を尊重しながら看護を実践できる能力を養う。

### 老年看護学実習目標

- I 加齢に伴う変化や健康障害をもちながら生活している高齢者を、統合的に理解することができる。
- II 生活者としての対象のもてる力を最大限に活用し、自立性を高めるための看護を実践することができる。
- III 保健医療福祉チームにおける協働・連携の重要性と看護の役割を理解することができる。
- IV 継続看護の必要性について理解を深めることができる。
- V 高齢者が築いてきた生活史や多様な価値観を尊重した態度でかかわることができる。

### (1) 老年看護学実習Ⅰ (1単位 45時間 2年生)

#### 目的

地域で生活している高齢者を理解するとともに、QOLを高めるための日常生活自立支援について必要な援助ができる基礎的能力を養う。

#### 目標

- I 施設の機能・役割を理解することができる。
- II 地域で生活している高齢者とのふれあいから対象の生活を理解し、自立にむけた援助について考えることができる。
- III 地域における多職種との連携の必要性と看護の役割について考えることができる。
- IV 高齢者を人生の先輩として尊重した態度でかかわることができる。
- V 看護学生として、責任ある行動をとることができる。

### (2) 老年看護学実習Ⅱ (2単位 90時間 3年生)

#### 目的

健康障害をもちながら生活している老年期にある対象の特徴や生きてきた過程を理解し、その人らしく人生を全うできるような看護を実践できる能力を養う。

## 目標

- I 老年期にある対象について発達段階・健康障害の種類・健康の段階・生活過程の特徴を統合して理解することができる。
- II 看護の必要性から対象のもてる力を最大限に活用した日常生活を維持・向上するための看護計画を立案できる。
- III その人らしさを考えながら、対象に必要な援助を実施・評価することができる。
- IV 保健医療福祉チームの一員として、多職種連携と看護の役割について理解を深めることができる。
- V 高齢者を人生の先輩として尊重し、看護学生として責任ある行動をとることができる。

## 5) 小児看護学実習 2単位 90時間

### 小児看護学実習目的

小児期にある対象とその家族を理解し、様々な健康の段階と発達段階に応じて、健全な成長発達を促すための看護を実践する基礎的能力を養う。

### 小児看護学実習目標

- I 子どもの特性と発達段階を踏まえて、様々な健康状態にある対象を統合して理解できる。
- II 対象の健全な成長発達を促すための看護が考えられる。
- III 対象や家族の状況に合わせて、安全・安楽に看護を実施できる。
- IV 保健医療福祉チームの一員として多職種連携の必要性を理解できる。
- V 対象と家族の意思を尊重し、看護学生として責任のある行動がとれる。

### (1) 小児看護学実習Ⅰ (1単位 45時間 2年生)

#### 目的

子どもの成長発達と子どもを取り巻く環境を理解し、小児看護の基礎的能力を養う。

#### 目標

- I 健康な子どもの成長・発達の特徴を理解できる。
- II 家族と子どもを1つのユニットとして考えることができる。
- III 発達段階に合わせた基本的な生活習慣獲得への援助を理解できる。
- IV 発達段階を踏まえたコミュニケーションや遊びについて理解できる。
- V 子どもの安全を守るための行動がとれる。
- VI 子どもが地域の中でどのように支えられているのか理解を深めることができる。
- VII 子どもの意思と権利を尊重し、看護学生として責任のある行動がとれる。

### (2) 小児看護学実習Ⅱ (1単位 45時間 3年生)

#### 目的

小児期にある健康障害をもつ対象とその家族を理解し、健康の段階と発達段階に応じて、健全な成長発達を促すための看護を実践する基礎的能力を養う。

#### 目標

- I 子どもの特性と発達段階を踏まえて健康障害のある対象を統合して理解できる。
- II 健康障害のある対象の健全な成長発達を促すための看護が考えられる。
- III 対象や家族の状況に合わせて、安全・安楽に看護を実施できる。
- IV 保健医療福祉チームの一員として多職種連携の必要性を理解できる。
- V 対象と家族の意思を尊重し、看護学生として責任のある行動がとれる。

## 6) 母性看護学実習 2単位 90時間 3年生

### 目的

マタニティサイクル期の母性機能と新生児の生理的变化を理解し、妊産褥婦、新生児とその家族を対象に、次代の健全な育成に向けて適切な援助ができる能力を養う。

### 目標

〈妊娠期（産婦人科外来）〉

- I 妊娠期の生理的变化をふまえて対象の経過が理解できる。
- II 対象が妊娠期を健康的に過ごせるように生活を整える援助が理解できる。

〈産褥・新生児期（含む分娩期）（入院棟）〉

- III 産褥期の生理的变化をふまえて対象の経過が理解できる。
- IV 対象が妊娠・分娩により生じた心身の変化から回復し、母親として自立できるような看護が考えられる。
- V 新生児期の特徴をふまえて対象の経過を理解できる。
- VI 新生児期にある対象が母体外生活への適応がスムーズに進むような看護が考えられる。
- VII 対象の生理的变化や日齢に合わせて、看護を実施・評価できる。

〈共通〉

- VIII 母子保健医療チームの一員として責任ある行動がとれる。

## 7) 精神看護学実習 2単位 90時間 3年生

### 目的

病院や地域で精神障がいをもちながら生活している対象との関わりを通し、精神障がいに対する理解を深め、その人らしく生活するための援助を実践できる基礎的能力を養う。また、対象との関わりの中で自己理解を深め、援助者としての態度を育てる。

### 目標

- I 精神科病棟における治療的環境の特徴を理解できる。
- II 障がい対象の日常生活に与える影響を捉え、自立度に合わせた看護を考えることができる。
- III 対象との関わりを通して自己を客観的に振り返り、自己理解を深めることができる。
- IV 精神保健医療福祉チームの活動を学び、看護の役割を理解できる。
- V 精神保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。

## 8) 統合実習 2単位 90時間 3年生

### 目的

既習の知識・技術・態度を統合し、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を高めるとともに、保健医療福祉チームにおける協働・連携についての理解を深める。

### 目標

- I 複数の患者を受け持ち、優先順位を判断しながら、既習の知識・技術・態度を統合し看護を実践できる。
- II 看護チームの一員として連携・協働することをとおして、リーダー・メンバーの役割と責任について理解する。
- III 看護管理の実際を知り、保健医療福祉チームにおける看護師の役割について理解する。
- IV 専門職業人をめざす看護学生としての自覚と責任をもち、行動できる。